

ゆうりん にしはるちかむらしもまき か のうひょう た ろう ばい か あんまた はな あん ごう ごせい おとうと せいげつ いちにち ひやく
有隣は西春近村下牧の加納 豹 太郎、梅香庵又は花の庵と号す。五声の 弟 で、井月と一日に 百

にじゅうつく よ かせんいつかん こうぎょう ゆ みや みなかたむら したく おおくさ どうそん あとつぎ
二十句を詠み歌仙一卷を興行している。湯の宮は南向村四徳にある。大草も同村である(嗣

やすと しぞう
康人氏藏)

かんげつ
換舌

たいしょ せつますます ごふうりゅうなんざんたてまつりそうろう
大暑の節 益 御風流奉南山 候。 {あいさつ文。}

のぶればこのたび ゆ みや ぶ たいさいけん つき すもうひょうがくめんほうのう したく ぐんないしよけん ぎよくぎんあいねがい こうぎょうつかまつりそうろう
陳者此度湯の宮舞台再建に付、角力評額面奉納仕度、郡内諸賢の玉吟相願ひ興行 仕 候

あいだ
間、【このたび、湯の宮の舞台を再建するにあたり、相撲評額面を奉納したいので、郡内の皆
さまの俳句をいただいて催したいと思います。】{「角力評額面」がわからないが、俳句を募集し
て優劣を評価し、相撲の番付表のように一覧に書いて奉納するのだろうか。「興行」は、人を集
めて催し物を行うことだが、ここでは俳句を集めることを言っているのだろう。}

その ごしゃちゅうおんに く ほど おとりもちひとえにこんがんとてまつりあげそうろう そなわち さしあげそうろうこの あいだ ご はいぶんなくた
其御社中御式句の程御取持 偏 奉懇 願 上 候。 則 ちらし差上 候 之 (カ) 間御配分被成

され たくさん ごとうぎんねがいあげたてまつりそうろうなり きょうきょうとんしゆ
下、沢山御投吟奉希上 候也。 恐々頓首【社中のみなさんから、二句を出していただく
よう、お取り持ちをお願いします。チラシを差し上げますので、配っていただき、たくさんの投
句をお願いします。】{おそらく無料ではあるまい。投句料を徴収したのだろう。井月にとって、
良い収入になったはずである。「懇願上」はどう読んだらよいだろうか。}

きゅうろくがつじゅうさんにち
旧 六月十三日

さいしゅはい
催主拝

しもまきむら ゆうりんせんせい ごしゃちゅう
下牧村 有隣先生御社中

さいしゅはい
催主拝

おおくさしゃちゅう
大草社中